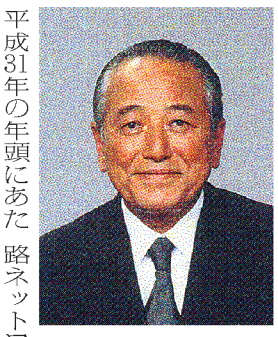
中国地区道路利用者会議会長



檜山俊宏

広島県議会議員

平成31年の年頭にあたり、当会を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

当会議の運営及び諸活動につきましては、日ごろから格別のご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

近年、東日本大震災をはじめ、集中豪雨や台風等による痛ましい自然災害が全国各地で相次いで発生しております。

中国地方においても、台風7号及び梅雨前線等の影響で西日本を中心に大規模な被害をもたらした記録的大雨「平成30年7月豪雨」により、高速道路をはじめ国道・地方道が多くの箇所で寸断され、被災地周辺道路においては激しい渋滞が発生し、災害時における救助や復旧に向けた物資・人員の輸送、さらには日常生活にも大きな支障をきたしました。しかしながら、道路ネットワークの復旧後は、救助・救援活動及びトラック等による緊急物資の輸送、また、バス等による緊急輸送や鉄道代替輸送などが活発に行われ、その後の社会経済活動を維持する上で、道路ネットワークが果たす役割を再認識しているところでございます。

このように頻発する異常気象や、近い将来、発生が予測される南海トラフを震源とする巨大地震など、災害リスクは年々高まっておりますが、中国地方を俯瞰すると、緊急輸送道路の核となる高速道路ネットワークは山陰地方を中心にいまだ未供用区間が多く、加えて、高速道路ネットワークを補完する地域高規格道路等の整備も十分と言える状況ではありません。

さらに、本格的な人口減少時代を迎える我が国において、更なる経済成長を実現するためには、これまで成長を支えてきた労働者の減少を上回る「生産性」の向上を図る必要があります。

このため、高速道路ネットワークの早期整備や機能強化に加え、ピンポイント渋滞対策や港湾・空港のアクセス道路の改善による輸送の効率化等を図り、加えて、スマートICの整備による利便性の向上など利用者の視点に立った高速道路ネットワークの有効利用を積極的に推進する必要があります。

こうした中、当会議といたしましては、地域の更なる発展のため、道路利用者の立場から、必要な道路整備の着実な実施に向け、道路関係予算の確保・拡充に全力で取り組んで参りますので、皆様には一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして幸せで実り多く、大いなる飛躍の年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

四国地区道路利用者会議会長

楠瀬賢一

高知県ハイヤー・タクシー協議会会長

平成31年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、日頃から当会議の運営および諸活動につきまして、格別のご支援ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年は全国各地で災害が多発し、強靱な道路ネットワークの必要性を痛感した年でした。四国地方では、とりわけ7月の豪雨により、愛媛県宇和島市の国道56号や高知県大豊町の高知自動車道において大きな災害が発生し一時通行止めとなりました。しかしながら、両地域では事前に高速道路が延伸しておりダブルネットワークが構築されていたため、災害時においても道路ネットワークが寸断することなく、貨物輸送やバスの運行などが確保されました。このことに加え、高知自動車道では四車線化が完了していたため、被災を免れた二車線を活用した対面通行により、約1週間で広域迂回が解消され、道路利用者の負担が早期に解消されました。

四国4県では、今春に高松自動車道の全線四車線化が完了し、来年度には、徳島自動車道の徳島東IC～徳島JCTの開通や中村宿毛道路の全線開通、松山自動車道の中山スマートIC の開通が予定されており、高速道路のネットワーク機能が格段に充実することになります。また、地すべりや岩盤崩落に対する安全性の確保に資する国道33号橘防災、交通渋滞の緩和と交通安全の確保を図る国道55号阿南道路の開通も予定されるなど、一般道路においても着実に整備が進められています。道路利用者としましては、道路を活用し、産業・観光振興など経済の活性化を図る取り組みを支えていきたいと考えております。

道路整備を着実に進めていくためには、予算がしっかりと確保されることが重要です。昨年、重要インフラについて全国一斉に緊急点検が実施され、あらゆる災害に対し、その機能を発揮できるよう特に緊急に実施すべき対策が今後、集中的に実施されることになりました。道路においては法面の防災対策や橋梁の耐震補強が加速することで、四国地方が直面している南海トラフ地震への対応をはじめとする課題の早期解決につながるものと期待しております。

当協議会としましても、高規格道路のミッシングリンクの解消はもとより、生活や経済活動に密着した国道、県道等の改良や耐震強化、防災対策、老朽化対策などの必要性を引き続き訴えてまいりますので、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

年頭に当たり本年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますことを、心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とします。

九州地区道路利用者会議会長

金子健次

福岡県柳川市長

平成31年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には、平素から道路整備の促進に格段のご尽力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、1月から2月にかけて日本海側を中心とした暴風雪、西日本を中心に広範囲で記録的な大雨となった平成30年7月豪雨、9月にはたて続けに日本列島を襲った台風21号・24号、そして平成30年北海道胆振東部地震等により甚大な被害が発生し、300名を超える多数の尊い人命が奪われました。不幸にも、お亡くなりになられた方々に改めて哀悼の意を表しますとともに、被災されました方々の一日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

いつ、どこで、何が起きてもおかしくない大自然の猛威を封じることはできません。しかし、道路が被災時の救援・救護活動や災害物資の緊急輸送を支えるとともに被災地域の早期の復旧・復興において極めて大きな役割を果たすという使命は将来においても変わることはありません。

さらに、災害が社会・経済活動に及ぼした多大な影響を省みて幹線道路ネットワークの充実を早期に実現するとともに、橋梁の耐震化やダブルネットワークによる代替性の確保など事前の防災・減災対策を怠ることなく、今後も一層強力に推進していく必要があります。加えて、高速道路のミッシングリンクの解消に対してもスピード感をもって取り組んでいかなければなりません。

また、人口減少や高齢化が進行する中で「地方の創生」を進めていくためは、定住するための拠点を結ぶネットワークの整備により、日常生活や地域の産業活動を支え、企業、観光客誘致などが促進され、生産性の向上、交流機会の拡大、地方活性化といった社会資本整備の本来の役割であるストック効果を最大限に発揮させる必要があります。

さらに、通学路や生活道路、自転車通行空間確保等の暮らしの道の安全対策・交通事故対策、人流・物流の生産性の向上のための渋滞対策、無電柱化の推進などの取り組みも地域として必要なことです。

道路整備を取り巻く環境は大変厳しい状況ではありますが、これら道路をめぐる諸課題を解決し、国民に「安全・安心な道路」を提供するため、新たな財源の創設も含め道路予算の十分かつ安定的な確保が是非とも必要であり、我々もそのことを強く訴えて行かなければならないと思います。

最後になりますが、本年も皆様方のご健勝とご多幸を心より祈念しまして新年のあいさつといたします。

主張

持続可能な社会を目指して

我が国においては、世界に類を見ない人口減少、少子高齢化の進展や厳しい財政状況による課題に直面しており、日本政府は、成長戦略、地方創生、生産性革命、人づくり革命などによる社会・経済の変革にチャレンジする各種施策を進めている。その一つとして、政府が掲げる新たな社会像であるSociety5・0の実現に向けた取り組みが産業界を中心に進展しているところである。AIやIoT、ロボットなど革新的イノベーションによる科学技術を実装して、社会の様々な分野のデータを活用することで、経済の発展と社会問題の解決の両立を行い、あらゆる人がいきいきと快適に暮らせる持続可能な社会を実現するものである。

Society5・0で取り扱う領域は広く、健康寿命の延伸や質の高い生活の向上を目指す「健康・医療・介護」、住み慣れた地域での生活継続やドライバー不足の解消を目指す「移動」、サプライチェーンの効率化を目指す「ものづくり」、災害に強く安全安心なまちづくりを目指す「インフラ・まちづくり」、金融手続コストの削減などを目指す「金融」が挙げられる。共通社会資本である交通インフラストラクチャーとしての高速道路ネットワークが果たす役割は、「健康、安全に配慮した社会活動を支える」、「住み続けられるまちづくり」、「効率的なものづくり」、「産業と技術革新の基盤」、「強靭化・減災・防災で国民の命と暮らしを守る」と多くの活動領域を跨ぐ基盤となっている。

高速道路においても、人口減少や大規模自然災害リスクなどの乗り越えなければならない課題がある。一般的には、人口減少は一人当たりのインフラストックの量を増加させるため、維持管理や更新費用の負担は大きくなる。一方で、防災や安全の視点から必要な整備とサービス水準を維持していかなければならない。このため、インフラメンテナンスの革新的イノベーションによる効率化と長寿命化の実現が不可欠である。加えて有料区間においては、利用者が負担する料金を整備・維持管理資金としているため、積極的な利活用を促し料金収入を増やすことが求められる。無料区間においては、無料で利用することが前提であるため、サービス水準を維持するために、長期的に税金負担対象となる人口構成に合わせたサービスのあり方や新たな財源を考える必要がある。

今後、高速道路ネットワークの更なる価値創造へ統合的に取り組み、人々が安心して暮らせるような持続可能な社会を実現したい。

三陸沿岸道路　釜石山田道路　大槌IC～山田南IC

平成31年1月12日（土）開通

国土交通省が整備を進めてきた三陸沿岸道路釜石山田道路（大槌IC～山田南IC）が平成31年1月12日（土）に開通した。

【開通日】
平成31年1月12日（土）

【開通区間】
三陸沿岸道路釜石山田道路（大槌IC～山田南IC）／延長8・0km

【開通による整備効果】
◇津波浸水区域を回避し、緊急輸送道路の信頼性確保
◇迅速な救急搬送で、安全・安心な住民生活に寄与
◇地域産業の復興支援（水産業）

「チェーン規制区間」を設定

国土交通省では、冬期道路交通確保対策検討委員会でとりまとめられた、「大雪時の道路交通確保対策中間とりまとめ」に基づき、「道路ネットワーク機能への影響を最小化」を目標として、除雪体制の強化や集中除雪、大雪時の需要抑制の呼びかけ等の取り組みを進めている。

このうち、チェーン規制については、大雪特別警報や大雪に対する緊急発表が行われるような異例の降雪時（平成29年度は、大雪特別警報の発令はなく、大雪に対する緊急発表は3回。）に、勾配の大きい峠部でこれまでに大規模な立ち往生などが発生した区間を対象として、従来であれば通行止めとなる状況においてタイヤチェーン装着車のみ通行を可能とすることとした。

チェーン規制区間については、国土交通省及び高速道路各社のホームページを参照。

高速道路の主な工事に伴う通行止め・規制情報

【工事通行止め】

◇新東名高速道路　清水連絡路
1月28日（月）、29日（火）　20:00～翌6:00

【工事規制】

◇阪神高速1号環状線（北行き）
2019年1月～2020年3月末（予定）　昼夜連続路肩規制

◇九州自動車道　姶良IC～薩摩吉田IC
1月15日（火）～4月5日（金）　終日対面通行規制

◇沖縄自動車道　金武IC～許田IC
1月8日（火）～4月20日（土）　終日対面通行規制

↙となった国立京都国際会館には、全国から約1,300名の方々が出席、京都市内とともに京都府の観光施策である「もうひとつの京都」エリア3コースに約260名参加いただきました。この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。この全国大会を契機に、今後とも、京都府はもとより近畿地区全体で道路整備への熱い想いを訴えていきたいと決意を新たにしたところでございます。

年頭にあたり被災地の復興が進み、今年こそ明るい年となりますよう祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。